

アートを探求

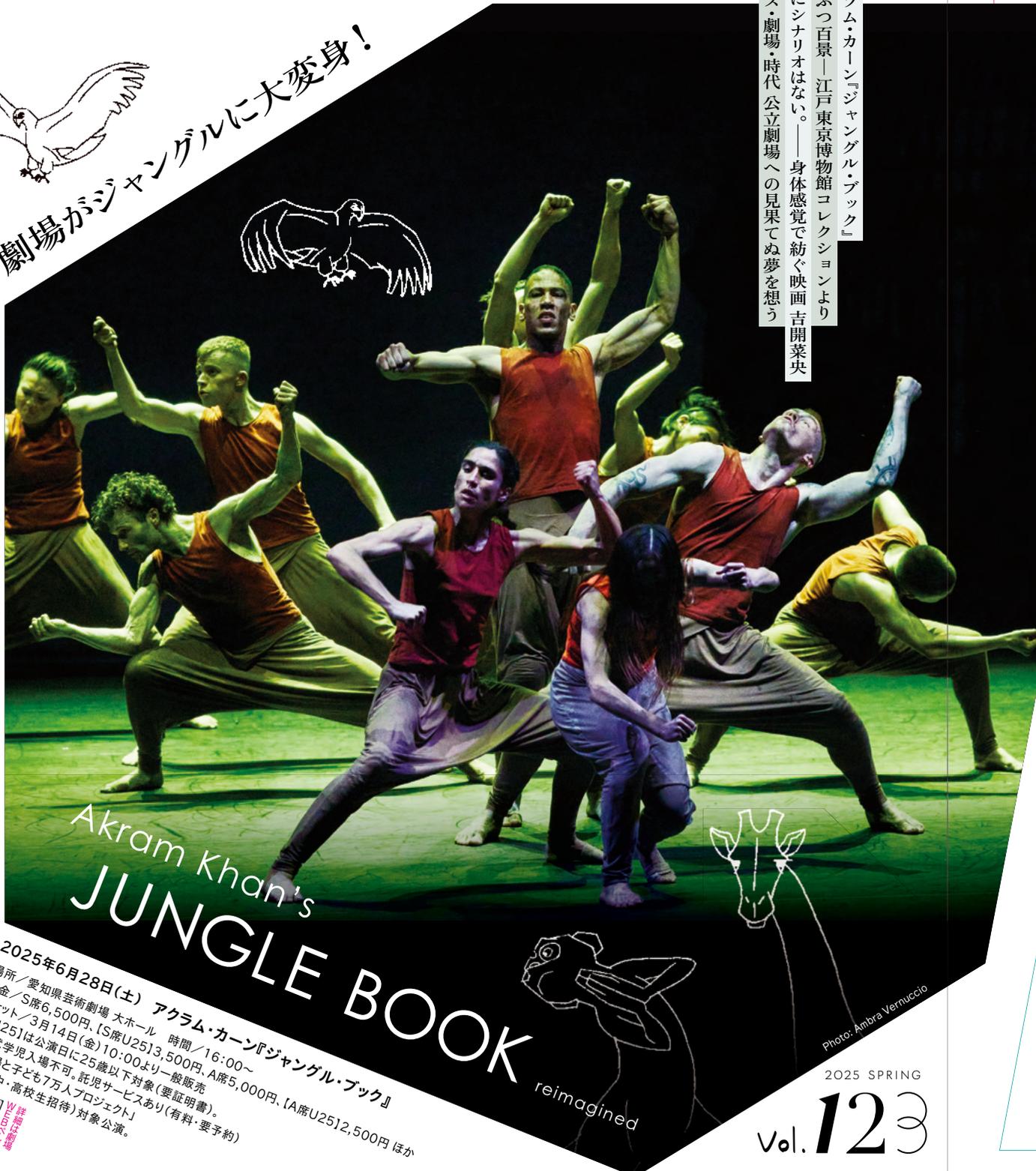
AAC Journal

AICHI
ARTS
CENTER

by 愛知芸術文化センター

劇場がジャングルに大変身!

自然と動物たちの賛歌



アクラム・カーン『ジャングル・ブック』
どうぶつ百景—江戸東京博物館コレクションより
そこにシナリオはない。—身体感覚で紡ぐ映画 吉開菜央
ダンス・劇場・時代公立劇場への見果てぬ夢を想う

2025 SPRING

Vol. 123

環境をテーマにした ダンス×アニメーション

2023年はキッド・ピボット(カナダ)、24年はNDT(オランダ)と、海外の第一線で活躍するコンテンポラリー・ダンスをお届けしてきた愛知県芸術劇場の海外招聘シリーズ。25年は6月に大ホールで開催します。今回はノーベル文学賞

受賞で著名な作家・詩人のラドヤード・キプリングが執筆した『ジャングル・ブック』をもとに創られた舞台作品がイギリスから初来日。原作の小説をはじめ、絵本やアニメーションでも広く知られており、世界中で親しまれている作品です。22年の初演から各国で高い評価を得てきた作品には、原作をもとにしながら、人間が地球への愛をあらためて考えるきっかけになってほしいという祈りが込められています。今作で主人公のモーグリは、気候難民の少女として描かれています。とある荒

れ果てた都市にたどり着いた際、人の姿はなく、近代的な街はジャングルと化していました。さまざまな動物たちに占拠された風景・状況に驚きながらも、かれらの声に耳を傾け、どのようにすれば人と大自然とが共存できるのかを問いかけます。作品の振付・演出は、ロンドン五輪開会式(12年)で一部振付を担った世界的振付家アクラム・カーン。ルーツとするインドの古典舞踊カタクを、コンテンポラリー・ダンスに融合させた独自のスタイルで世界中から注目が集まっています。作品について、カーンは「より明るい未来のためには、草の根から変化を起こさなければならないと信じています。そのため、私は『ジャングル・ブック』として愛されている物語を、あらゆる文化の子どもたちや大人たちと共有する使命を感じています。私たちの種族が忘れてしまったことを、再び学ぶために」と、語っています。直感的に観て楽しめて奥深いテーマを感じられる卓越したダンスにどうぞご期待ください。

愛知県芸術劇場

江戸東京の いきものと人々の暮らし

本展は、東京都江戸東京博物館とパリ日本文化会館が2022年に共同開催した「いきもの：江戸東京動物たちとの暮らし」展の帰国展です。

江戸時代、長く続いた平和を背景に、人々の暮らしと動物は密接に結びついていました。荷を運ぶ牛馬が市中を往き交い、人々は犬や猫を家族の一員として可愛がり、鳴き声を楽しむ鳥や虫が飼われていました。

人々にとって動物が身近であったことは、さまざまな生き物のかたちが着物や装身具、玩具のデザインに取り込まれていったことから読み取れます。

本展では、東京都江戸東京博物館の珠玉のコレクションのなかから多様な美術作品・工芸作品を展示し、江戸・東京の都市空間における人と動物の関わり合いをご紹介します。

愛知県美術館 学芸員 岩間美佳

愛知県美術館



2025年4月11日(金)~6月8日(日)
どうぶつ百景—江戸東京博物館コレクションより

場所/愛知県美術館
時間/10:00~18:00※金曜~20:00
(入館は閉館の各30分前まで)
休館日/毎週月曜日
(ただし5月5日[月・祝]は開館)、5月7日(水)
料金/一般1,500円(1,300円)、
高校・大学生1,000円(800円)、中学生以下無料
※()内は前売券および20名以上の団体料金です。
※会期中一部展示替えをします。
前期 4月11日(金)~5月11日(日)
後期 5月13日(火)~6月8日(日)

詳細は美術館
WEBサイトで!



後期展示
月岡芳年画、網島亀吉版
「風俗三十二相 うるささう 寛政年間処女之風俗」(部分)
1888(明治21)年、東京都江戸東京博物館蔵

スタッフのオススメ関連本!
ART LIBRARY

江戸絵画 木村定三コレクション
愛知県美術館、2006

愛知県美術館が所蔵する木村定三コレクションのうち、江戸絵画の優品を収録した部門別図録。建部凌岱《梅に叭々鳥図》や伊藤若冲《菊に双鶴図》など、動物を題材にした作品も収録。

岩間学芸員



2025年6月28日(土) アクラム・カーン『ジャングル・ブック』
場所/愛知県芸術劇場 大ホール 時間/16:00~
料金/S席6,500円、[S席U25]3,500円、A席5,000円、[A席U25]2,500円 ほか
チケット/3月14日(金) 10:00より一般販売
※[U25]は公演日に25歳以下対象(要証明書)。
※未就学児入場不可。託児サービスあり(有料・要予約)
※「劇場と子ども7万人プロジェクト」
(小・中・高校生招待)対象公演。



劇場

コラボレーションの想像力がダンスを拡張

ダンスの概念を拡張するシリーズ「パフォーミングアーツ・セレクション」。2024年は方向性の異なる4つの作品でそれぞれコラボレーションの成果が光った。

岡田利規×酒井はな『ジゼルのアらすじ』は、「瀕死の白鳥」を扱った前作に続く二人の顔合わせで古典バレエを現代に語り直す。岡田のテキストは酒井自身による「ジゼル」上演の経験を織り込み、ユーチューバーに扮する酒井の演じるコメディ調のモノローグに仕立てた。島地保武『Dance for Pleasure』は、バレエの革新者フォーサイスの薫陶を受けた島地の演出・振付で、言葉を介さず動きそのものが連携を生むパフォーマンス。ダンスが意味を越えて切り拓く境地に、11人の若いダンサーとともにリスクを負って臨んだ。これら二作は言葉を巡ってダンスの可能性を両極に広げている。

次の二作では協働するダンサーの力が創作に大きく貢献した。小暮香帆×ハラサオリ『ポスト・ゴースト』は歌舞伎の異性装に着目し、越境する身体を問う。思考を可視化するソリッドなシーン構成が際立ち、上演は緊張感に満ちている。銀色のポレロ、骨組みだけのスカートの奇抜なデザインは現代の「かぶき者」、クィアネスの表象だろうか。鏡像関係にある二人は衣装の交換を繰り返し、パネルの両端から左右対称にマジックペンで線画を描く。歪に引かれた線は自他、虚実、ジェンダー、生死の境界を揺さぶり、歴史に埋もれた声なき女たちの抵抗の力を呼び起こす。幽霊から荒ぶる女たちまで、髪を梳くお岩から秩序／男（風船で象徴か）を破壊してまわる出雲阿国まで、しなやかに

心を揺さぶり、思考が巡る、その場でしか味わうことのできないもの。

変化する小暮の身体がハラスの思考を触発する。鈴木竜×岡本優『TAMA』は鈴木が幼少より親しんでいたけん玉に着想した。基本技「もしかめ」から生まれるミニマルな屈伸運動をBPM135のリズムに置き換え、40分間ステップを踏み続ける。景色が変わるのは天から射す光を思わせる笙の音が入るとき、そして共演の岡本に自発的なグルーブが生まれる時だ。単調なステップに移動と上体の振付が加わり、対の二人は天空を駆ける風神雷神のごとく舞台にスケール感のあるダンスを繰り広げる。最小の動きからどこまで遠く想像力を飛ばせるか。挑む二人に遊び心のある衣装が彩りを添えた。

竹田真理さん Mari Takeda

ダンス批評。京都、神戸など関西圏を拠点に活動。近年は名古屋がテリトリーに入るほど、愛知県芸術劇場のダンス・プログラムに足繁く通っている。



岡田利規×酒井はな『ジゼルのアらすじ』 © Naoshi Hatori



島地保武『Dance for Pleasure』 © Naoshi Hatori

愛知県芸術劇場×Dance Base Yokohama
パフォーミングアーツ・セレクション2024 ～間(あいだ)の時間～
2024年11月30日(土)・12月1日(日)
場所／愛知県芸術劇場 小ホール

鑑賞

note

丁寧な言葉で残されたレビューを読み深めて楽しみたい。

絢爛たる令和の御開帳——生き続けるコレクション——

現場に着くまではいつものような名品展だと思っていた。しかし、その予想は良い意味で裏切られた。最初の部屋に入った途端、祖師の頂相(肖像画)と墨蹟がすき間なく飾られていて濃密な宗教空間に引き込まれてしまった。こんなにみっちり作品を並べるのは、掟破りではないか。

その後の展示室でも圧倒的な物量に押されっぱなしであった。相国寺640年の歴史の厚みが、展示作品数の膨大さに現れているようであった。数だけではない。なかには装丁を含めると2mを超える大幅の中国絵画が並ぶ場面もあり、壮観であった。

もちろん絵画の質も高い。古くから知られるレジェンド的な作品から近年収蔵された名作まで、収蔵品がところ狭しと展示されていて、やはり質の高い名品展であるのだった。夢窓派祖師の頂相や墨蹟、如拙、周文、雪舟、宋元明の中国絵画など重厚な作品群の先には伊藤若冲の作品が並んでいた。それにしても、いつもは奔放な表現で主役を張る若冲も、相国寺の先輩方に遠慮して今回はかしまつておとなしい印象を受けた。若冲はモダンなアーティストとして評価されがちなが、明暗にメリハリをつけた神秘的な照明が、若冲の静謐な祈りを浮かび上がらせているようで、相国寺と若冲の関わりの宗教的な側面に企画者たちは光を当てているように感じられた。

相国寺では江戸時代に「同仁斎古書画展」という収蔵品の展示が行われたらしい。そこでは四畳半の同仁斎に収まりきれないほど多くの作品が出陳されたようだ。今回の展覧会の濃密さは、あるいはこの作品展観というものに

対する惜しみのない精神を継承しているのではないか。

寺院の文化財からはタイムカプセルのように時が止まってしまった感覚を受けることが多い。しかし、相国寺コレクションは異なる。明治以降、昭和、平成とたゆまずコレクションを増やし、展示施設を整備し、文化財は生命体のごとく時々でよみがえり、令和の今に至っても活性を失わない。禅の世界に絵画の理想的な生態系が構築されていることが伝わってきた。

濃密な空間の中で、最後の部屋にかけられていた玉腕梵芳筆「石竹図」のひっそりとしたたたずまいになぜか心惹かれた。

伊藤大輔さん Daisuke Ito

名古屋大学大学院教授。主な著書に『鳥獣戯画を読む』など。



相国寺承天閣美術館開館40周年記念
相国寺展——金閣・銀閣 鳳凰がみつめた美の歴史
2024年10月11日(金)～11月27日(水)
場所／愛知県美術館

AACのWEBサイト・SNS・音声メディアでは芸術を気軽に楽しめるコンテンツを配信!

AACタイム
by 愛知芸術文化センター



県内21校の子どもたちが、パイプオルガンに出逢った!



小・中・高生を劇場に無料で招待する舞台芸術鑑賞教室を、2024年11月に愛知県芸術劇場コンサートホールで開催しました。カナダのトリックアート画家が手がけた絵本『終わらない夜』から着想を得て、作曲家の坂本日菜さんが書き下ろした新作を世界初演。子どもたちは勝山雅世さん(オルガン)×藤井咲有里さん(朗読)に興味津々の様子でした。参加した小学6年生は「絵本に演奏と朗読が加わって、平面だった本が立体的になって、臨場感がありました」と、語ってくれました。

News

お知らせ

年間スケジュールの詳細はこちら!



2025年度の愛知県美術館
展覧会スケジュール、決定!

春は「どうぶつ百景—江戸東京博物館コレクションより」、夏は近代の日本画界に大きな足跡を残した「竹内栖鳳展」、秋の国際芸術祭「あいち2025」をはさんで、冬はファン・ゴッホ美術館の所蔵品を中心とする「ゴッホ展 家族がつかない画家の夢」です。年間スケジュールは愛知芸術文化センター内各所に配架し、また、愛知県美術館WEBサイトでも公開しています。来年度も愛知県美術館ではコレクション展を含めて多様なテーマで展示を行います。どうぞご期待ください。

もっと知りたいアート専門の図書館
ART LIBRARY
(愛知芸術文化センター1F)

洋雑誌コーナーでは、アメリカ、フランス、ドイツ、イタリアなど、各国の洋雑誌を閲覧することができます。過去のバックナンバーも多く所蔵していますので、ぜひカウンターで請求してみてください。



デザイン／神谷直広、高木若菜(株式会社Rand)
編集／村瀬実希(MAISONETTE Inc.)、ReIna
印刷／長苗印刷

© 愛知県芸術劇場2025 ※本誌記事・写真・レイアウトの転載を禁じます。 ※本誌に掲載している価格は、原則的に消費税込みの価格です。 ※掲載内容は2025年2月14日(金)現在のものです。展覧会・公演の内容を変更、または開催を中止する場合があります。

2025年3月1日号 Vol.123 発行・お問合せ／愛知県芸術劇場(公益財団法人 愛知県文化振興事業団) ☎052-955-5506 e-mail/mkt@aaf.or.jp(広報グループ)



INTERVIEW

そこにシナリオはない。
——身体感覚で紡ぐ映画

吉開菜央

聞き手／愛知県美術館主任学芸員 石崎尚
撮影／千葉由津子



1987年山口県生まれ、東京都在住。2010年日本女子体育大学舞踊学専攻卒業。12年東京藝術大学大学院映像研究科修了。映画作家・ダンサーなど多方面で活躍し、映像作品においても、自らの身体感覚を大切にしながら紡いでいくシーンに定評がある。15年『ほったまるびより』で第19回文化庁メディア芸術祭エンターテインメント部門新人賞受賞。19年『Grand Bouquet』でカンヌ国際映画祭の監督週間短編部門正式招待を受ける。監督・出演した映画『Shari』はロッテルダム国際映画祭2022に公式選出されている。

『まさゆめ』
2024年11月23日(土)・夜・24日(日)に開催した、第28回アートフィルム・フェスティバルで『まさゆめ』を世界初公開。「ゆくゆくは7.1chで見てもらえるようになったら嬉しい」と吉開。

ちよっとした興味で禅修行へ
新しい生活と変化が芽生える

石崎(以下、石) 愛知県美術館オリジナル映像作品の第32作となる『まさゆめ』の監督・主演を務められた吉開菜央さん。ご家族にご不幸があつて、ご自身の体調不良を機に訪れた禅寺での修行体験を活かした作品です。そもそもなぜ禅修行へ行かれたのでしょうか。吉開菜央(以下、吉) 映画の『土を喰らう(十一月)』(2022年、中江裕司監督)を見て、精進料理のシーンがいくつもあった。料理に限らず、生活の知恵を学べるから禅寺に行ってみたくて行ったのが最初です。当時は著しいメンタル不調ではなく、普通に暮らしているけれど、よく眠れない日々が続いてわだかまりがある状態でした。それを改善する効果を期待したわけではありましたが、「食べる」「寝る」「呼吸する」ということの意味を改めて知ることができたことが本当にすくよくよく、ここ数年で自分の身に起きたことや、自分の生活まるごとを、映画をつくることで捉え直してみようと思えました。

石 吉開さんの作品は、いわゆる映画のシナリオがないですね。
吉 私はこれをどうやって実現するんだろ(と)という内容をよく扱うので、今回も作品になるかな、ならないかなみたいな感じで(笑)。まず禅寺での体験を振り返りながら箇条書きにして、紙芝居にしました。絵コンテとは違うものですが、ちゃんとイメージを共有できるように、実際に撮るとなったら自分がどういうスタンスで作品に入っていくかは良いのか、禅寺に何度か通って探りました。早い段階でご住職に許可をいただいて、修行者さんにも確認しながら進めています。

石 実際、禅寺ではどのような生活を送っていましたか。
吉 修行者が禅寺に入ることを入山と言います。最初は食事の修行からはじまり、物音を立ててはいけないので震えながら食べました。毎日同じ時間で5時20分に起床、5時40分に太極拳、そのあとに座禅25分を2セットします。映画のなかにも座禅ありますが、朝一番に誰かのお腹が鳴って、それに続いて「おはよう」と挨拶するよう

に次々とお腹が鳴るんです(笑)。
石 ほのほのとしたユーモアを感じるシーンは意図的に入れているのですか。
吉 修行をして高尚なありがたさを感じたというより、法話に可笑さを使う現代的な和尚さんや、一般の修行者さんと共同生活しながら、少しずつ何かが起きていくことが良かったなと思ひ返りました。むしろ公民館的なお寺の在り方に目を向けるようになり、所々に俗な部分が入り込んでいきます。

言葉になる前の感覚
|| 情動を映像化

日々の断片をつなげてみたら

石 不思議な私たちのオブジェが回転したりと、お寺のシーンとは全く離れて、独特なシーンが効果的でした。これまでの作品でも用いられている手法ですか。
吉 大橋可也&ダンサーズの『ザ・ワールド』シリーズの舞台映像を担当していて、吸い血をテーマに液体系のをずっと撮っています。夜の海の中を撮影したり、海岸で拾ったものでオブジェを作ったこともあります。「野口体操」で知られる野口三千三にもハマっていて、「生きている人間からだは、皮膚層」という袋の中に液体的なものが入っていて、そのなかに骨も筋肉も内臓も脳も浮かんでいる」という概念に影響を受けています。私はそれを「肉袋」と呼び、いつか映画に取り入れられないかと考えていました。今回は禅寺を取材テーマとしていますが、その教えは肉袋に通じるものがあると感じたので、肉袋を表したシーンも入れています。

石 この作品は「食べる」ことをテーマにしていると思いますが、お粥を食べるところからはじまり、合宿を経て、後半は吉開さん自身がお母さんのおっぱいを吸っていた思い出にまで遡ります。食べ物から出発して、人生そのものを振り返るような壮大な構成でした。
吉 小さい頃の映像を入れたのは自然な流れでしたが、最初の編集段階ではもっと雑然としていました。本当に必要なシーンだけを残した結果、自分でも気づいていなかった食べることにつながった感じはありましたね。石 スマートフォン、フィルムカメラ、ホームビ



『肉袋』は、講師をする大学の授業でも最近よくやっています。死体のようになって、どこを触られても力を抜いて動かされると、身体がすくむんですよ」と、全身を使ってゆらゆらとした動きを説明。

ダンス
劇場
時代

Dance
Theater
Period

変わりゆく劇場の制度と
ダンス事業を振り返って

このころ日本各地に新しいコンセプトで大小の創造する劇場建設が予定されていました。
1993年に神奈川県芸術文化財団が創設され、そのメイン事業は国際芸術フェスティバルに決定。公的な財団の事業として継続が可能で、フェスが誕生しました。本フェスティバルは、現代舞台芸術を軸にしたコンテンポラリー・アート・シリーズが組み込まれ、そのオープニングはパレエの進化系を提案したウイリアム・フォーサイス率いるランクフルト・パレエ団の代表作「アーティファクト」や新サーカス・アートも取り入れたフィリップ・ドックワレの初来日公演、ダムタイプによるエイズ・ジェンダーなどを当事者としてテーマにした「S/N/C」、日本初演などの演出で構成し、続きがなかった『AW89』を継承するプログラムにしました。本シリーズは90年代後半から若手ダンサーの持続的な育成企画も立ち上げ、2003年にはヨーロッパの複数の劇場との共同制作、フィリップ・ドックワレ振付による新作「アイス」に挑戦。出演ダンサーは日本、中国、韓国、フランスから集結しました。日本ツアーの後にパリ国立シヤイヨール劇場で1か月のロングラン公演、ヨーロッパ各都市ツアーを展開し、日本発の現代ダンス作品を世界に送り出すことができたのです。でも、05年に神奈川県は県民ホールの指定管理者公募に移行し、それまでの現代ダンス関連シリーズの継続はここで途切れました。

1980年代の半ばからこれまで、国内外で公立の劇場やフェスティバルのダンス企画にディレクターやプロデューサーとして関わってきました。なので、ここでは自身が関わったいくつかの体験を交えて、ここ数十年の劇場とダンスの変遷を振り返り、日本のダンスと劇場の今について考えてみたいと思います。日本でも最初に手がけた企画は、1989年に開催された国際舞台芸術フェスティバル「ヨコハマ・アート・ウェーブ89(YAW89)」。その2年ほど前から横浜市ではまだ誰も手がけていない領域の芸術フェスティバルを模索していました。後にヨコハマ・アート・ウェーブ89(YAW89)と名付けられた本フェスティバルは、身体表現／ダンスを軸にした計8演目。タンツテアターのピナ・バウシュを筆頭に初来日のローザスやフィジカルな強度を放つラウラ・デルス・バウス、白虎社、横浜ポトシアターなどを大規模な倉庫など横浜ならではのシンボリックな場を使って展開し、時代の最先端のパワフルな身体表現を提案しました。『YAW89』は後述の日本の現代ダンスを勢いづける追い風にもなりました。

それまで積み上げてきた創造活動が自治体の方針で見直されたことに戸惑いながらも、どうしたら次のステップに進めるのか思案していた05年、影の国さいたま芸術劇場からプロデューサーのオファーがありました。1994年にオープンした当劇場は約700席の大ホールや大中小さまざまな稽古場があつて、現代ダンスの創作や公演には最適な劇場です。神奈川県では難しかった日本の若手の小品創作やラボといった作品リサーチ企画にも取り組みやすかったのです。とはいえダンスに使える予算は年々減少していったので、海外からの招聘公演は愛知県芸術劇場やびわ湖ホール、北九州芸術劇場など他館と

企画を共有し、経費をシェアしながら実施。この方法はより多くの日本の観客にダンス作品が出会える機会を生み出すことにもなりました。一方、県民のみさんにも気軽に劇場に来て楽しんでいただけるプログラムとして、ダンスにコントや人形劇を挟んで観客を作品に巻き込んでゆくコンドルズや子どもと大人と一緒に楽しめる「日本昔ばなしのダンス」など、それまでになかった親しみやすいダンス企画も加えて、恒例の企画として継続していたのですが、2022年にコンドルズ代表の近藤良平が影の国さいたま芸術劇場の芸術監督に就任し、新たな方向で事業を展開していた24年秋、埼玉県は劇場の指定管理者公募に移行しました。

80年代後半のバブル絶頂期からその後の(失われた30年)の間、自身が関わった公立劇場やフェスティバルとダンス事業の推移を振り返ってみたい。このような劇場の制度変更に対して公立劇場はどのように向かい合っているのか。持続可能な展望が持てる劇場のありかたを改めて考える時にきているのではと感じます。

世界が内向きになり自国優先に向かい、AIが人間に代わってその能力を発揮している今、人類最古のユニバーサルなコミュニケーション芸術であるダンスはわたしたちに残された希望になるのか、見果てぬ夢を想うこの頃です。

公立劇場への
見果てぬ夢を想う

MORE THEATER



佐藤 まいみ
KAAT 神奈川芸術劇場 アドバイザー

ヨコハマ・アート・ウェーブ'89アーティスティックディレクター。神奈川国際芸術フェスティバル、影の国さいたま芸術劇場プロデューサー、Dance Dance Dance@YOKOHAMA2012、2015ディレクターなどを歴任。

ART LIBRARY
スタッフのオススメ本達！
世界の美しい劇場を1冊で巡る旅
エクストラレッジ、2024.4
世界中の美しいオペラハウス、コンサートホールや劇場のうち、厳選した62劇場を紹介した書籍。見開き2ページの華やかな写真とともに、各劇場の歴史、建築や意匠の特徴を解説。
愛知芸術文化センター管理課アートライブラリー担当 三上昂良

navigator's
COLUMN

国際芸術祭「あいち2025」のキュレーターやスタッフがナビゲート。
アートの多様性を「あいち」から発信します。

こんにちは、ラーニング部門キュレーターの辻琢磨です。私は建築設計を本業として活動していますが、今回のラーニング部門ではアート、写真、デザインといった異なる分野から4名のメンバーにも参加してもらい、さまざまな専門性を持ったチームで運営しています。「あいち2025」ではこれまで芸術祭を支えてきたボランティア活動にも力を入れ、これまでの取り組みを引き継ぎながらいろいろなアップデートを試みていく予定です。ボランティアは6月まで募集していますので、興味のある方はぜひご応募ください！



国際芸術祭「あいち2025」キュレーター(ラーニング) 辻琢磨(建築家)

2025年9月13日(土)~11月30日(日)[79日間]
国際芸術祭「あいち2025」
芸術監督 / フール・アル・カシミ
テーマ / 灰と漆のあいまに
主な会場 / 愛知芸術文化センター、愛知県陶磁美術館、瀬戸市のまちなか